



令和7年5月26日
福岡ひびき信用金庫

株式会社 EV モーターズ・ジャパンとの サステナビリティ・リンク・ローンの契約締結について

福岡ひびき信用金庫（理事長 井倉 眞）は、地域のカーボンニュートラル達成に向けた取り組みの一環として、株式会社 EV モーターズ・ジャパン（代表取締役社長 佐藤 裕之）と、「ひびしんサステナビリティ・リンク・ローン（以下ひびしん S L L）※¹」の契約を締結しましたのでお知らせいたします。

ひびしん S L L は、達成すべき目標を二酸化炭素（CO₂）排出量の削減に限定し、脱炭素化に取り組む地域企業を資金調達面と各種サポートで支援するものです。

福岡ひびき信用金庫は、地域金融機関としての責任を果たすため、地域の皆様とともに地域カーボンニュートラル達成に貢献してまいります。

記

【契約内容】

実 行 日	2025 年 5 月 23 日
期 間	5 年
資 金 使 途	事業資金

【企業概要】

企 業 名	株式会社 EV モーターズ・ジャパン
所 在 地	福岡県北九州市若松区向洋町 22 番 1 号
代 表 者	佐藤 裕之
事 業 内 容	電気自動車及び充電設備の販売・再生可能エネルギー事業
資 本 金	8,227.7 百万円
設 立	2019 年 4 月 1 日

以上

※1 ひびしんサステナビリティ・リンク・ローン

本商品は、サステナビリティ・リンク・ローン原則※²等に基づき、カーボンニュートラルに特化したローン商品であり、地域企業の脱炭素経営をサポートし、お客さまとともに地域脱炭素達成の実現に貢献することを目指しています。

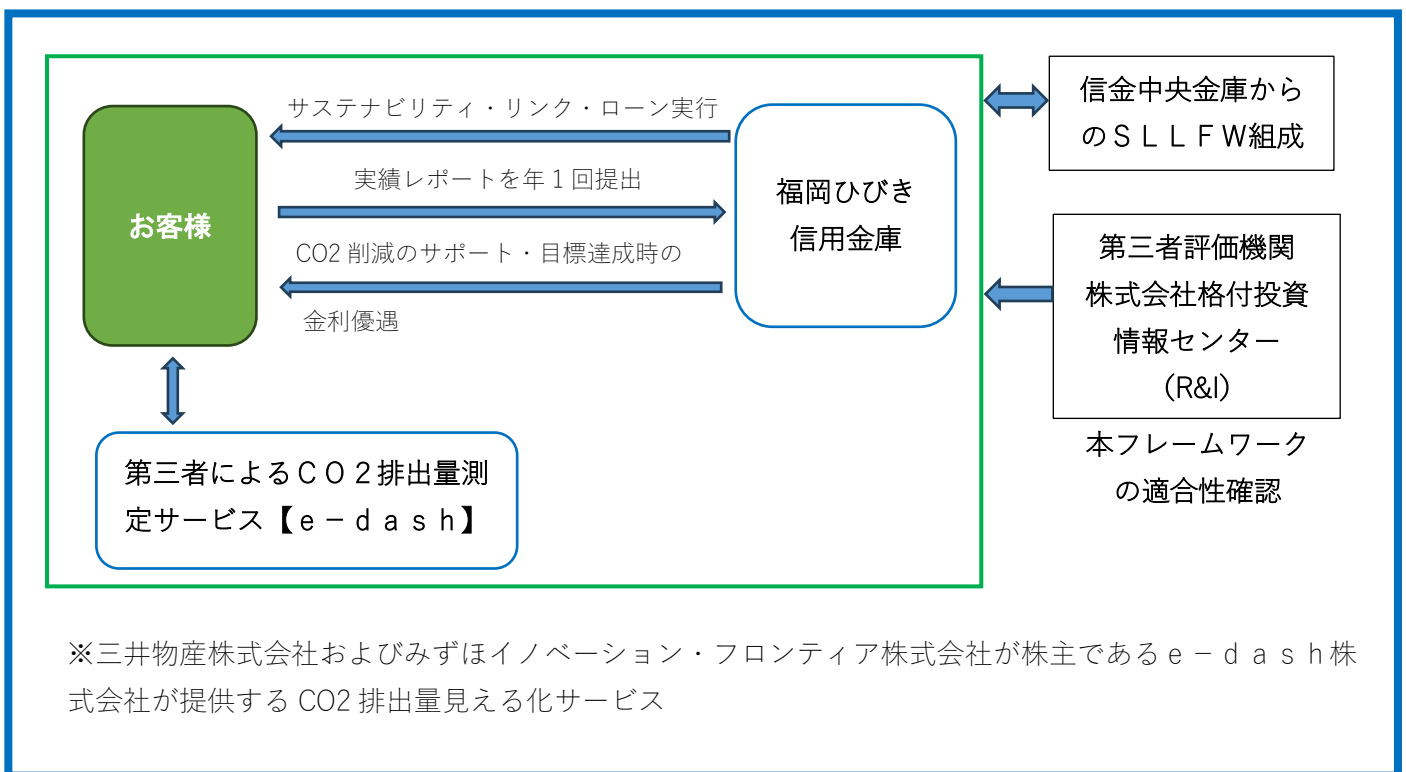
地域の中小企業においては、自社の脱炭素の取り組みについて各種認証の取得や第三者の客観的な評価を得ることへの負担が大きいという課題があることから、福岡ひびき信用金庫では、お客様のCO₂排出量の測定やレポートを低負担で行える「サステナビリティ・リンク・ローンフレームワーク」を採用しています。

当金庫が採用したサステナビリティ・リンク・ローンフレームワークは、第三者評価機関である株式会社格付投資情報センター（R&I）よりサステナビリティ・リンク・ローン原則等に適合しているとの意見を取得しています。

※2 サステナビリティ・リンク・ローン原則

サステナビリティ・リンク・ローンは、環境的・社会的に持続可能な経済活動および経済成長を促し、支援することを目指すものとして、世界的な金融機関の代表で構成される作業部会によって策定された原則。

ひびしんサステナビリティ・リンク・ローンフレームワーク（ひびしんSLLFW）図



※三井物産株式会社およびみずほイノベーション・フロンティア株式会社が株主であるe-dash株式会社が提供するCO₂排出量見える化サービス

<本リリースに関するお問い合わせ>
福岡ひびき信用金庫 経営企画部
サステナビリティ推進室
TEL：093-661-2413（9時～17時）
担当：小茅 黒木

2025年5月23日



株式会社 EV モーターズ・ジャパン

ひびしん サステナビリティ・リンク・ローンの取り組みについて

福岡ひびき信用金庫
中央営業本部

福岡ひびき信用金庫は、2024年10月10日、株式会社格付投資情報センター（R&I）より、CO2排出量（総量又は原単位ベース）の削減率を KPI として策定した融資フレームワーク「ひびしん サステナビリティ・リンク・ローン（以下、ひびしん SLL）」が、「サステナビリティ・リンク・ローン原則」及び「サステナビリティ・リンク・ローンガイドライン 2025年版」に対して適合的であるとの評価を取得しています。

【ひびしん SLL フレームワークに対する R&I の評価について】

https://www.r-i.co.jp/news_release_suf/2025/05/news_release_suf_20250516_jpn_24.pdf

1. 借入人の概要

(1) 事業概要

事業者名：株式会社 EV モーターズ・ジャパン

代表者名：代表取締役社長 佐藤 裕之

本社所在地：北九州市若松区向洋町 22 番 1 号

ショールーム：北九州市若松区白山 1 丁目 18 番 7 号

東京支店：東京都中央区新川 1 丁目 10 番 3 号 THEGATE 茅場町 2F

その他国内拠点 5 カ所

設立年月日：2019年4月1日

役職員数：193名

ホームページ：<https://www.emv-j.com>

【主な事業】

電気自動車及び充電設備の販売、メンテナンス等

〔取扱車両〕バス、トラック、トライク、特殊車両等

自動運転対応バス（レベル4）の開発

電気自動車のリース、レンタル、ESCO 事業

蓄電池・PV を活用した再生可能エネルギー事業

株式会社 EV モーターズ・ジャパンは、2019 年設立のベンチャー企業であるが、代表者の知見とリーダーシップによって、国内唯一の商用 EV 専門メーカーとして成長を続けている。世界をエネルギー危機から守るという理念実現のため、EV バス等の EV 商用車を中心としたエネルギーマネジメントシステムを一気通貫で提案できるリソースを保有している。

若松向洋町の本社では「ゼロエミッション e-PARK」の第 1 期・2 期工事により、オフィス棟、最終組み立て棟、検査棟、塗装棟及び試運転コースが完成し本格的な生産体制が整いつつある。

2025 年の大阪万博に EV バス 150 台を納入するなど販売実績も上がっており、知名度も向上している。商用 EV の実証段階からメーカーとしてステップアップし、さらなる飛躍が期待されている。

また、下記のように企業理念・経営理念からは未来志向のチャレンジャーとして気概がうかがえる。

企業理念

EV モーターズ・ジャパンは、革新的なテクノロジーを生み出す環境エネルギー企業として、世界のエネルギー危機を一掃することを不変の使命とし、環境エネルギー浸透を積極的に推進していきます。あわせて、新しい技術を生み続けるとともに、未来のエンジニアの育成に努め、世界の期待を担う企業として成長を続け社会に貢献して行きます。

経営理念

- ・ 技術王国ニッポンの復活の中心として新技術で日本No.1 商用 EV メーカーを目指します。
- ・ 全員が失敗を恐れず、魅力ある、世界が欲しがると技術を創造していきます。
- ・ 技術者のあこがれを職業にしていきます。
- ・ 客先と対等の立場＝信頼であり続けるために、常にユーザーより深い技術を担保します。
- ・ ベンチャー精神を持ち続け、定説にとらわれない発想と努力を忘れません。
- ・ 全員が起業家意識をもち、全員で営業に取り組みます。
- ・ 全員が起業家意識をもち、待ちではなく、自ら最善・改善を発送・実行していきます。
- ・ お客様を第一に考え、既存概念にとらわれた“NO”は言いません。

『YES の先に創造される新しい技術にこそよろこびを見出します。』





第二期工事：試運転コース



試運転コースを走るEVバス



最終組み立て工場：外観



納車準備中のEVバス

(2) サステナビリティ

当社は EV 商用車の課題である走行距離を延伸する手段として「アクティブ・インバータ」を開発、合わせてボディのシャーシには、STALA350 ステンレススチール採用し車体を軽量化。既存 EV 商用車より走行距離を延ばすことに成功、国内生産体制を構築中。当社の EV バスは主に地方部のバス会社で採用されており、用途に応じたサイズ別商品ラインナップから引き合いが増加。今後、EV のメリット生かし、ガソリンスタンドなど給油施設が閉鎖により減少している過疎地域での採用も期待される。商用トラック部門への進出はこれからであるが、大手運送会社はラストワンマイルの配送に EV を活用する方向性であり、運送業界での採用も見込む。また、EV 用蓄電池技術を磨いてきたことで、EV のみならず様々な場所での蓄電池技術転用により、当社の持つ技術が環境に大きく貢献することが期待されている。



アクティブ・インバータ



車両の軽量化

2. KPI の選定

(1) KPI の概要

- ・ KPI は当社における CO2 排出量 (Scope1・2) (総量・原単位ベース) の削減率である。

3. SPT の設定

(1) SPT の概要

- ・ SPT は 2024 年 12 月期との対比で、2030 年 12 月期に CO2 排出量を 23%以上削減する。
- ・ CO2 排出量の判定は決算期毎とし、初回判定は 2025 年 12 月期とする。なお、基準年は 2024 年 12 月期 (109.28 t-CO2) とする。
- ・ 当社の CO2 排出量のほぼ 100%が工場・事務所で使用する電気であり、本 SLL では電気使用による CO2 排出量 (Scope2) を SPT の基準とする。

SPTs の目標値 (単位 : t-CO2)						
決算期	2025 年 12 月	2026 年 12 月	2027 年 12 月	2028 年 12 月	2029 年 12 月	2030 年 12 月
目標値	150.00	150.00	150.00	90.00	86.53	84.06

(2) SPT の野心性

①SPT の水準感

- ・ 当社は、2025 年 12 月期より 2030 年 12 月期まで、2024 年 12 月期比で%/年の CO2 排出量削減を本ローンの SPT として設定した。当社全体の CO2 排出量のほぼ 100%が工場・事務所で使用する電気の使用により発生する CO2 排出量を SPT の基準としていることより、2021 年 10 月に閣議設定された「地球温暖化対策計画」において示された「産業部門」におけるエネルギー起源 CO2 排出量削減量※を基準とした。※2030 年に 2013 年度比 38%削減 (2013 年から 17 年間 38%、2.23%/年の削減)

目標計画では、2025 年 12 月期から 2027 年 12 月期まで工場の通年稼働により排出量は一旦増加する計画を立てているが、太陽光発電設備の設置により 2028 年 12 月期には 150 t-CO2 から 90 t-CO2 まで削減、2030 年 12 月期には 84.06 t-CO2 に削減され、2024 年 12 月期の 109.28 t-CO2 から 23.07%CO2 排出量が削減される。

②SPT の達成手段

- ・ 太陽光発電の設置による再生可能エネルギーの導入、設備の省エネ運用

③SPT の野心性

- ・ 2024 年 12 月期を基準として、2025 年 12 月期から 2030 年 12 月期まで通算 23.07%、比例直線的削減率に均すと 3.846%/年の CO2 排出量削減を目標としている。3.846%/年の削減目標は政府目標に求められる水準である削減率 2.7%/年を超えていて十分に野心的といえる。

(3) SPT の妥当性

- ・ 福岡ひびき信用金庫は当社との対話や提出資料に基づき SPT を設定した。設定した SPT はひびしん SLL の想定する CO2 排出量削減の基準を満たすものである。

4. ローンの特性

- ・ 目標達成時に優遇金利を適用することで CO2 排出量削減を動機付けている。

- ・ 目標未達成の場合は融資金利の優遇は行わず、金利据え置きとする。
- ・ 融資実行後の排出量削減目標達成時に、融資金利を 0.2%引き下げる。
- ・ 引き下げ後も目標未達成の翌年は優遇金利の適用を行わず、翌年の判定時期まで金利を引き上げるものとする。
- ・ 上記のようなローン設計により、貸出条件と当社の SPT に対するパフォーマンスが連動しており、SPT の目標達成のインセンティブとなっている。

5. レポートニング

- ・ 当社は福岡ひびき信用金庫に対し年 1 回、SPT の達成状況について報告する。

6. 検証

- ・ KPI の実績値に関して、当社は第三者機関から検証を受けたレポートニング資料等を福岡ひびき信用金庫に報告する。
- ・ 福岡ひびき信用金庫はレポートニング資料等の内容から SPT 達成の判定について評価する。